

vol. 2312

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



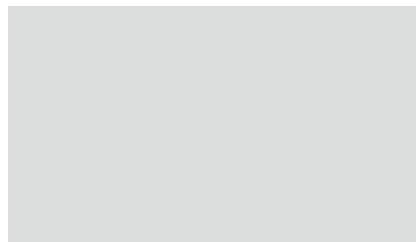
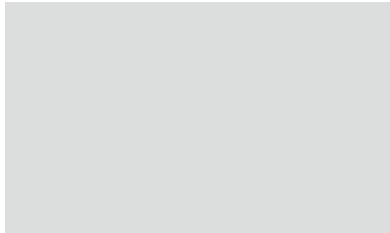
今号の掲載内容 (掲載順)

- 2023年度高教組体育大会
- 高教組フェスタ2023
- 第7回日教組臨時・非常勤教職員等全国交流集会
- 第33回日教組人権教育実践交流集会 還流報告
- 「させる」と「指導」をやめて、子どもの権利を大切に 第30回教育相談全国研究集会 還流報告

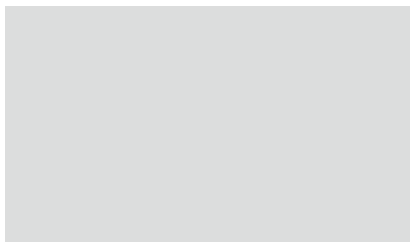
2023年度 高教組体育大会

とき：11月26日(日) ところ：ラウンドワンスタジアム大分店

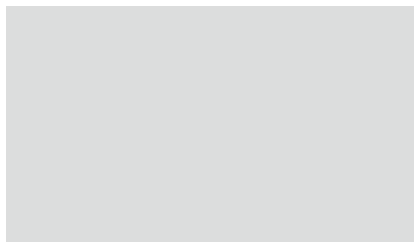
4年ぶりとなる高教組体育大会を11月26日(日)に開催しました。ボウリング競技に7チーム、26名が参加し、和気あいあいと久しぶりの体育大会を満喫しました。久しぶりの開催、学校行事の多い2学期、ということもあったかもしれませんが、もっと多くの方に参加していただきたいです。学校現場の多忙が叫ばれる今だからこそ、仲間が集い、語ることが癒しになるのではないのでしょうか。来年は、「忙しいから」と断念する気持ちを「忙しいからこそ」の気持ちに変えて参加してみませんか。



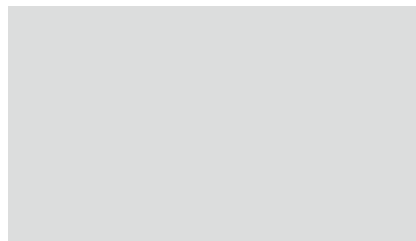
サンライズ



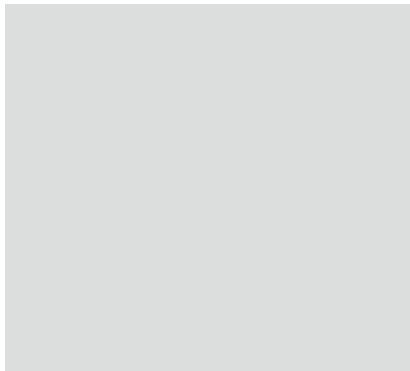
たっちゃん いいね!



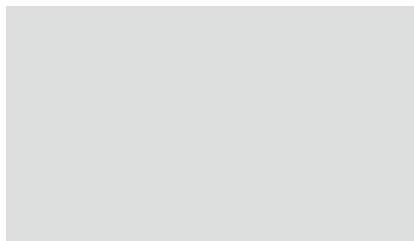
父さん



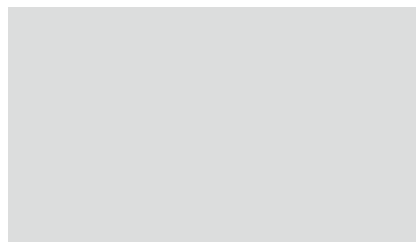
東魂スペシャルズ



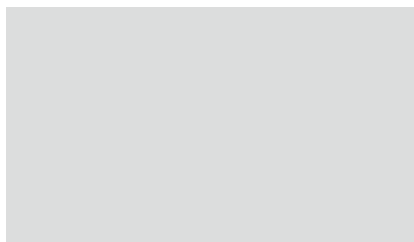
ムーンライトストライクゲームで
見事ストライクを達成!!
津崎周平さん



爽風定

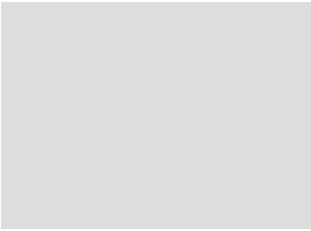
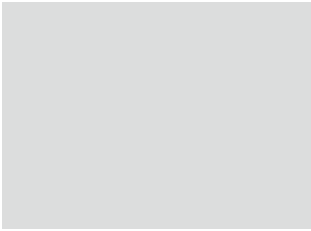


チーム書記局

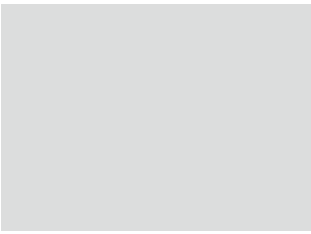
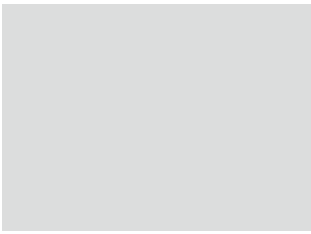


由布支援

個人の部
 優勝 佐藤 諒さん
 準優勝 宮脇 滉平さん
 第3位 津崎 周平さん

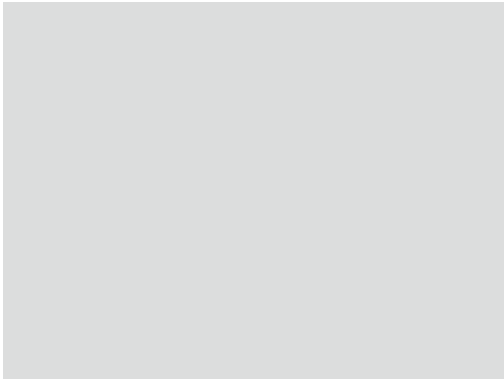


団体の部
 優勝 たっちゃん、いいね！
 準優勝 東魂スペシャルズ
 第3位 爽風定



高教組フェスタ 2023

とき：12月16日（土） ところ：コンパルホール



「高教組フェスタ2023」を12月16日（土）、コンパルホールにて開催しました。今年度は、特別学習会「お金の話」、豆塚エリさんによる講演「しにたい気持ちが消えるまで～私たちはどう生き延びるか」、夕食交流会の3部構成でした。

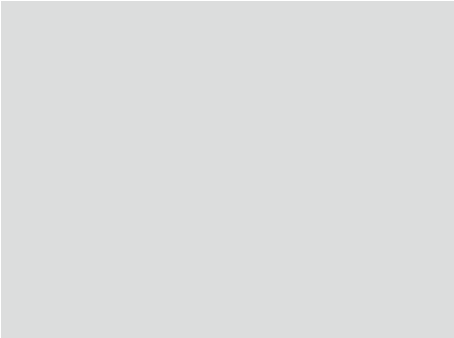
【特別学習会】 定年延長でどう働くの？退職金は？年金は？保障ってどれぐらい必要？資産運用ってどうすればいいの？「お金」に関する諸々について、教職員共済、ろうきんの方をお招きし、みんなで学習しました。

【講演会】 「言葉が壊れていく」「生きている、ただそれだけ」「生きづらさとは居場所のなさ」静か

に語る豆塚さんの言葉の一つひとつに、当事者としての重みと力強さがあり、参加者の心に沁み入るものでした。教職員・親には届かない子どもたちの声に如何に寄り添っていくか、考えさせられる講演でした。

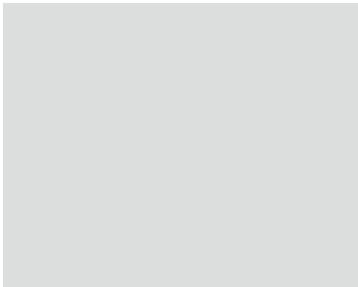
【交流会】 久しぶりに交流会が実施できました。実行委員会企画のゲームも盛り上がり、集い、語ることの楽しさを実感しました。

多くの仲間がいる、そのありがたさと喜びを実感できる瞬間を、これからも大切にしていきたいと思います。実行委員の皆さん、お疲れ様でした。参加者の皆さん、ありがとうございました。



《参加者の声（抜粋）》

- ・定年延長や年金、資産形成の話など、とても勉強になりました。保険のかけすぎなど思いあたることが多くありました。教職員共済の保障の良さを再認識しました。
- ・豆塚さんの体験を聞く中で忘れていたことをいくつも思い出しました。ただ、その時々気づいたことも、いつのまにか忘れてしまうもので、また歯をくいしばってがんばってしまう。すると、子どもにも同じことを求めてしまう、という構図が見えました。



豆塚エリさん

・社会に適応しようとするあまり、自分のことを自分で決めることができていない、居場所がないことが、子どもを追いこみ、自殺に結びついていることがよくわかりました。

- 「生きることは無意味であり、それでいい」という言葉がとても印象的でした。
- 今回は、ワイワイ楽しむだけでなく、しっかり考える、とても充実したものだと感じました。ありがとうございました。

実行委員長 堀田文雄さん

第7回日教組臨時・非常勤教職員等 全国交流集会

とき：8月26日（土） ところ：日本教育会館

日教組の運動方針にもとづく臨時・非常勤教職員等の処遇改善・雇用安定、組織化の推進のためのとりくみの提起、情報の共有、とりくみの交流を行うことを目的として、2016年より全国交流集会が開催されています。今年度、大分高教組からは、宇佐産業科学分会の毛井成美さんが参加しました。

大分高教組も、交渉で臨時・非常勤教職員の処遇改善等を求め続けています。今年度は、これまでの要求の成果として「学校で勤務する臨時的任用職員の病気休暇を有給に改める」という回答を得ました。これからも、ともに働く仲間の声に耳を傾け、その困りの解消に向けてとりくみを進めていきたいと思ひます。



《参加者の声》

今回参加をさせていただいて、各県の非正規雇用の現状が様々であると感じました。先輩方の努力で少しずつ改善されてきているからこそ、非正規であってもプロであるという意識をもって職務に臨み、自分の現状を見直していきたいと感じました。

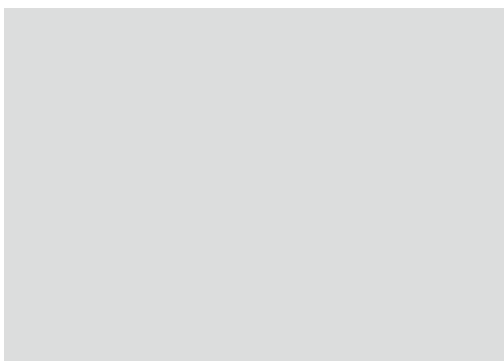
(宇佐産業科学分会 毛井成美)

第33回日教組人権教育実践交流集会 還流報告

とき：11月3日（金）、4日（土） ところ：ホテルメトロポリタン秋田

11月3日（金）～4日（土）、秋田県のホテルメトロポリタン秋田で第33回日教組人権教育実践交流集会が開催されました。

全体会は「競争・統制から共生へ～不登校・安心できる学校・子どもの権利から～」というテーマのもと、パネルディスカッション形式でのシンポジウムが実施されました。中央大学の池田賢一さんが、コーディネーターを務める中、5人のシンポジストが各立場から子どもの不登校にまつわる話題を議論しました。「『将来の準備のため』という名目で、子どもたちは常に何かの準備に追われ、安心して日々を送ることが難しい」ことや、「子どもが枠にはまらないことが問題視され、学ぶ場所を変



えたり、家から出られなくなったりしている状況がある。今の日本社会では、こうした状況を子どもや親に問題があるとする風潮があるが、変わるべきは子どもや親ではなくて『学校の環境』ではないか?と池田さんが問題提起。中央大学の水野佐知子さんは、小学生の書道の授業において、環境を変えた一例を話してくれた。全員が同じ字を書くようにすると、字の上手下手に目がいき、一定のルールのもとで好きな言葉を書くように指導すると、それぞれのもつ字の味わいや言葉の選択に目がいき、みんなちがってみんないい生まれるのではないかとということだった。一理あるなというところで、完成度のプレッシャーからは解放されるが、文字選択の自由度が高まり、なかなか決められない子どもにとっては辛い面もあるのかなと一筋縄ではいかない環境変化の難しさを感じました。子どもたちが自分らしくいられる時間をどのように環境として提供するか、日頃なかなかじっくり聞く機会のない話を聞いて、刺激もらった全体会でした。

その後の分散会では1時間弱の中で、8人の小グループになり、今大会のテーマにまつわる内容で、各県の情報交換をしました。

2日目は、第4分科会「インクルーシブ教育」に参加しました。共同研究者の西尾元秀さんは、「社会モデルと医学モデルは同時にやっていくことを強要するものではない」と話し、「医学モデルとは、車椅子に乗っていて歩けない生徒にリハビリや治療を施して歩かせるようなイメージ(=従来の学校教育)。できないことをできるように教育する」ことは大事かもしれないが、「できるまでみんなと一緒に教室に入れないうままでいいのでしょうか?」という話には、胸がつまる思いがしました。「社会モデルとは、車椅子のままでも移動や買い物ができるようバリアフリーにしたり、自分の意思を周囲に伝える手段を設けたり、その生徒に寄り添った環境を整えること(=インクルーシブの一つではないか)」だという話は、恥ずかしながら初めて聞いたということもあり、重要な視点だと感じました。その実践はクラス運営に限らず、授業実践の中



中でも考えられるべきもので、ペア・グループ、教え合うなどから子どもたちの関わりが生まれ、それが共生ではないかと様々な意見があり、視野が広がった思いがしました。

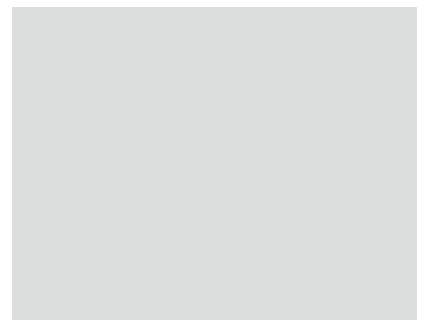
福島県教組の鈴木真一先生、滋賀県教組の神保裕美先生のレポートも、生徒が自分らしくいられるための環境整備や駆け引きなどのとりくみを伝えてくださり、とても勉強になりました。

正直、遠路はるばる秋田まで行くのか…という気持ちもありましたが、終わってみれば、来てよかったと思えるよい時間でした。ありがとうございました！
(大分工業分会 隅田智之)

「させる」と「指導」をやめて、子どもの権利を大切に 第30回教育相談全国研究集会 還流報告

とき：11月17日(金)、18日(土) ところ：日本教育会館

第30回教育相談全国研究集会に参加しました。1日目は、^{すえとみかおり}末富芳さん(日本大学文理学部教授)が「こども基本法・子どもの権利と子どもたちが『幸せ』な学校づくり」と題して講演されました。末富さんは、「子どもの権利を学んだ子どもたちはわがままになるなどという間違っただけを捉えている教職員がまだいるが、そうではない。子どもが権利を学ぶことは、いまも将来も幸せに生きるために大切なこと」「校則見直しに取り組んだ学校の生徒に話を聞くと、学校が好きだ。先生は生徒の意見を聞いてくれる。先生が生徒のことを大切に思ってくれている」といった思いを抱く」「子どもの権利を大事にして、『させる』と『指導』をやめて、『できる』と『対話』を実現していきましょう」と示唆されました。



末富芳さん

2日目は「いじめへの対応」「不登校の子どもへの支援」「発達障害児への支援」「子どもの権利保障」の4つの分科会に分かれ、全国各地から集まった相談員や現場教職員が各自の実践や悩みを持ち寄って協議・情報交換をしました。4年ぶりの対面での研究集会ということで、和気あいあいとした充実した会になりました。
(海洋科学分会 後藤恵美)